



Team石川



小中一貫CSだより第40号 2019年7月9日 文責(松)

15歳の姿; 自己の健康管理・安全管理に努め、文武両道に根気強く取り組む生徒

剣道部の活躍・好成績 ～小中連携・地域連携の力が結集～



地区中体連において、剣道部が大活躍をみせました。男子団体優勝、女子団体準優勝、男子個人優勝・準優勝・第3位・第5位(2名)、女子個人優勝・第5位(2名)、と大変立派な成績を収めることができました。これも小学校時代の石川少年剣道クラブにおける地域・小中学校関係者の方々・監督の指導、地域の剣道部OBの方々、保護者・保護者OBの方々の応援の賜だと思えます。また、石川少年剣道クラブで小中学生が一緒に練習できる環境を創り上げた関係者の方々に感謝申し上げたいと思います。選手の皆さんは、これから、県大会(7/14～15県武道館)に向けてさらに心・技・体を磨き上げ、楽しんで頑張ってもらいたいと思います。お家の方、地域の方々の応援よろしくお願ひします。大会後の剣道部の皆さんの笑顔を楽しみにしています。

ひろさき卍学～小学校編～



6月25日(火)、市の商工部産業育成課の事業「地元生産品に触れて知るプロジェクト」を「ひろさき卍学」として実施しました。6年生は津軽塗り、5年生は津軽焼きを体験しました。派遣されてきた職人の方々の御指導で、津軽の伝統工芸品の歴史なども学



ぶことができました。6年生は木製スプーンに磨きをかけ模様・つやを出すという仕上げ段階を体験し、5年生は土の塊から形成までを体験しました。「ものづくり」としての「ひろさき卍学」を学習することができました。



ひろさき卍学～中学校編～

6月25日(火)、中学校でも「ひろさき卍学」が行われました。1年生は岩木青少年スポーツセンターでの宿泊研修の事前学習として「岩木山学習」、3年生は「こぎん刺し」、そして、全学年で「縄文“体感”世界遺産講座」を実施しました。

岩木山学習

「1625」の日に合わせて、「岩木山はどんな山なのだろうか」という学習課題で校長と岩崎学年主任のTTで行いました。社会科的視点と理科的な視点でクイズ形式の学習を行い、「津軽の人々の信仰の山」「活火山」であることなどを学びました。



岩木山学習
岩木山はどんな山なのだろうか？

こぎん刺し

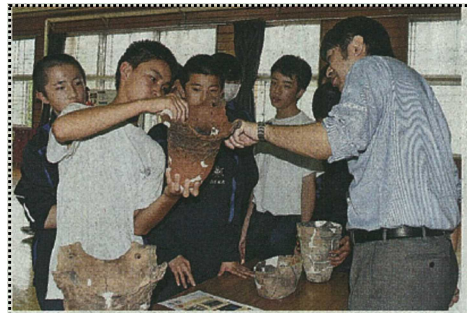
3年生は「こぎん刺し」を1学期に8時間行い、作品は石中祭に展示します。津軽の伝統工芸を学ぶ貴重な時間となっています。みんなが集中して、家庭科で行う「ひろさき卍学」に取り組んでいます。



縄文“体感”世界遺産講座



弘前市の縄文時代の遺跡といえば「大森勝山遺跡」が有名ですが、実は石川中学校区にも縄文時代の遺跡は12ヶ所確認されています。また、今から1万年以上前の土器が大沢から発見されています。さらに、石川長者森(東奥義塾高校あたり)からも「弘前で最も古い時代の人間生活の跡」が発見されています。(縄文時代前期:約5000年以上前)つまり、弘前で最初に人間が生活をはじめた所は「石川」なのです。小学校の校歌に「ここより開く津軽野」という一節がありますが、津軽は「石川」の地から開けていった、とも言えます。「石川」は津軽の「まほろば」(「素晴らしい場所」「住みやすい場所」を意味する古語)である、と一言で言い過ぎでしょうか。このような想いや弘前市博物館のマスコットキャラクター「いのっち」の原画作者が本校卒業生小田桐朱音さんである、ことなどを生徒の頭の片隅に刻み、「石川ってすごいな～」という想いをもってもらいたい、という願いから、この講座を開催することにしました。【講座の様子については「縄文体感世界遺産講座」で検索すると県庁HPで見ることができます。】



縄文土器に関する説明を聞く生徒ら

縄文時代に思いはせ

石川中で講座
土器や石器を“体感”

弘前

6/28付陸奥新報

弘前市の石川中学校 縄文土器に触れた(りし) (松山正男校長)で25日地元歴史を学ぶ日、ひろさき卍学の授け。業「縄文“体感”世界遺産講座」が行われ、歴史を学ぶこと、縄文時代の生活に思いはせ。9年にエネコの世界として訪れ、全校生徒約90人は大森勝山遺跡の遺跡を一覧表に掲載された「縄文時代の遺跡がある話を聞いた。北海、北東と知って驚いた。土器

今年も「大沢ねぶた」に参加します

大沢地区以外の希望児童生徒も参加できる体制が整い、3年目になりました。今年も8月5日(月)の駅前運行の日に参加します。大沢地区以外の児童生徒・保護者の方の多数の参加をお待ちしております。詳細については、6月25日に児童生徒に配布した「お知らせ」をご覧ください。是非、参加して「令和元年」夏の思い出をつくり、「石川」を盛り上げましょう。

